

研究ノート

在日コリアンと「イムジン河」の歌

青 野 正 明

はじめに

この研究ノートでは拙いながら、在日コリアンの民族教育を手がかりに、日本社会でマジョリティの日本人とマイノリティの在日コリアンが共生することについて、私たちが知り、そして考えるうえでの手がかりを提供したいと思う。私は主に植民地研究をしている者であるが、幅広い分野を網羅する韓国・朝鮮文化の講義で在日コリアンをテーマにする回があるため、少しずつ学んできた経験がある。

その経験から、私はここであえて日本語の歌「イムジン河」を取り上げることにした。その理由は、まず在日コリアンとの共生を学ぶうえで、私もそうであるが、教材としてよく用いられるのが映画「パッチギ！」であり、その映画の中で「イムジン河」の歌が共生について大きなメッセージを投げかけているからである。また「イムジン河」が、歌を通じて日本人と在日コリアンを隔てる河を象徴すると同時に、両者の架け橋の役割を果たしていることも理由となる。

1. 在日コリアンはどうして日本にいるのか

本稿で用いる「在日コリアン」は、日本の朝鮮植民地支配にともない渡日して日本社会に定住した人々とその子孫を指す言葉で、国籍と関係なく植民地期より朝鮮半島にルーツをもつ人びとである〔KMJのHP〕。

在日コリアンが日本に定住することになった主要因は日本の植民地支配である。とくに1920年代に朝鮮からの渡航者が増え続けたのは、植民地支配下で経済的状況が変化したことや、日本の教育などにともなう文化的・社会的な変化、朝鮮人に就職口の門戸が閉ざされたこと、渡航を促進する交通機関・通信機関が整備されたことなどが理由である。こうした朝鮮社会の変動・変容を背景として、日本への渡航が大規模に起こったと考えられる〔水野・文2015年、第1章〕。

経済的状況が変化した主な例としては、1920年代の農村での抑圧的な政策（産米増殖計画にともなう米の収奪や経済的負担等）により自作農が没落して農村が疲弊したことがあ

げられる。さらに、1929年の世界恐慌が翌年に日本におよび（昭和恐慌）、さらに朝鮮にも波及して農村の疲弊が深刻となり離農が進む。そのため、農村社会は大きく変動して多くの農民が住み慣れた村を出て移住し、朝鮮半島内部で大規模な人口移動が発生した〔青野2018年、第1章〕。移住者たちは、朝鮮半島の北部地方では国境を越えた地域にまで至り、朝鮮族の集住地域（中国の現・延辺朝鮮族自治州など）を形成する。

一方、この時期の日本では第一次世界大戦後の都市化や工業化で労働力の需要が増していた。そのため、南部地方では慶尚北道・慶尚南道を中心に、釜山港から下関港まで連絡船に乗り、北九州、広島、岡山、神戸、大阪湾沿岸、関東等の都市や工業地帯へと労働者として移住した者が多かった。また、済州島からは大阪間の定期航路で主に大阪方面に渡航している。

1920年代後半から、昭和恐慌の時期に朝鮮人労働者が増え続けたことは、大都市の行政当局者にとって深刻な問題で、彼らは失業問題、社会問題の一部として朝鮮人労働者を意識することとなった。そこで、日本政府は1934年10月の閣議で初めて本格的な在日コリアン政策を決定するのであるが、たとえば日本への渡航の制限と合わせて、朝鮮内での生活安定、そのための窮民救済事業の実施なども閣議決定された。これに関連するが、1930年代の朝鮮で進められた工業化の要因の一つとして、朝鮮人労働者の日本流入を抑制しなければならないという認識もあったという〔水野・文2015年、第2章〕。

他の日本移住の要因としては、1937年に全面化した日中戦争後の戦時動員や、解放後の混乱期に起こった済州島四・三事件（1948年）などもあげられ、後者では日本に避難してきた人びとがそのまま在日コリアンになった。

1930年代後半には日本生まれの二世が20～30%に、1940年代にはこの在日二世が30万人にも達していて、在日コリアンの相当数が言語や発想のし方という面で日本人一般のそれに近いものに染まっていたという。敗戦後の1946年3月までには、およそ140万人が本国に帰還したが、その頃から帰る者は減少し、いったん帰還した者が日本に「逆流」ということまで起こる。それは、日本の敗戦間際にソ連が参戦して、朝鮮半島が米ソの覇権争いの舞台となっていくからであった（1948年に南北分断）。植民地支配から解放された後の朝鮮は、左右対立によりテロの応酬など殺伐とした空気で覆われていたうえ、南朝鮮では深刻な食糧難や失業が混乱に拍車をかけていた〔水野・文2015年、第3章〕。こうして、帰還しなかったり戻って来たりして、その後も日本に留まることになった人たちが在日コリアンである。

かたや戦後の日本はというとGHQ（連合国軍最高司令官総司令部）の占領下にあった。そのため、冷戦（東西対立）で反共政策をとるGHQと同化主義方針を維持する日本政府により、社会主義的あるいは民族主義的傾向にあった在日コリアンは管理され、行動が規制されることになる。

なお、戦前に植民地帝国となっていた日本では、単一民族のナショナリズムと多民族の帝国主義的なナショナリズムとが重層していた〔青野2015年、終章〕。だが、領土が縮小する

とともに、周辺アジアを覆う冷戦の緊張からは「一国平和主義」的に距離を置こうとする戦後期に入って、むしろ単一民族論が主流になったという〔小熊 1995 年〕。日本政府もその立場で、単一民族のナショナリズム形成に邁進したため、日本人に同化しない在日コリアンに対して〈排除〉の方針を取るものであった。

たとえば国籍をみるなら、日本に在留する朝鮮人や同様に旧植民地出身の台湾人などは戦前まで日本国籍であった。そして、戦後もしばらくは日本国籍を保有していたが、朝鮮人および台湾人は二段階で日本国籍を失っていく。最初の段階は 1947 年に施行された外国人登録令（～1952 年 4 月）で、日本国籍でありながら「当分の間、これを外国人とみなす」（第 11 条）という施策であった。朝鮮人の国籍等の欄は出身地である「朝鮮」と書かれていて、これが朝鮮籍の起源である。つまり、朝鮮籍は実態をとまなう国籍ではなくて、日本において外国人登録上の出身地としての記号のかつ便宜的な記載であったわけである。

だが、翌年の 1948 年に南北に分断され、北に朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）が、南に大韓民国（韓国）が樹立されたため、新たに韓国籍ができて国籍問題がさらに複雑になる。韓国籍は韓国の国籍であるが、朝鮮籍は外国人登録令が生み出した出身地の記載であるため、当然ながら北朝鮮の国籍ではなく、事実上の無国籍とよくいわれている。あるいは、朝鮮籍は「国籍未確認」、つまり国籍選択権が与えられず国籍を喪失した後、いずれの国からも国籍の確認を受けていない状態という説明もある〔李 2021 年、第 1 章〕。

南北に分断された朝鮮半島に目を向けると、分断にともなう対立が激化して 1950 年には朝鮮戦争（～1953 年）が勃発した。この混乱期に日本に避難してきた人びとを、日本政府は密航者として取締りの対象としたため、さらに在日コリアンに対する管理・規制が厳しくなっていく。1952 年 4 月にサンフランシスコ平和条約が発効して日本は主権を回復し、新たに外国人登録法が制定された。これにより、在日コリアンをはじめとする旧植民地出身者は、日本政府からの通達により日本国籍を失う。前述したように最初の段階で日本国籍でありながら「外国人とみなす」状態に置かれていて、次の段階で日本国籍を完全に失ったわけである。そして、取締りの対象とされたため、永住権のような代わりの権利もないまま管理される状況に陥った。16 歳になって役所で外国人登録をする際や 5 年ごとの更新の際も、指紋を押捺させられていたが、この指紋押捺制度の対象となる在留外国人の大部分が在日コリアンであった。

なお、外国人登録法は 1999 年 8 月に改正されて指紋押捺制度が廃止され、この法令自体も新たな在留管理制度の導入にともない 2012 年に廃止されている。また、永住するための在留資格に関しては、韓国との国交が回復した 1965 年に韓国籍者のみ「協定永住」が認められるということがあったが、1991 年には朝鮮籍と台湾籍の人たちも合わせて一本化され、特別永住者としての在留資格が認められた〔ブリタニカ国際大百科事典 2018 年〕。

在日コリアンの現在の人口は、前述の「協定永住」の後、多くが朝鮮籍から韓国籍への書き換えをおこなったため、2019 年末の韓国国籍は約 45 万 1 千人である。それにともない朝

鮮籍の人びとは減少して、2019年6月末で2万8千余人となった。また、数字はわからないが、日本国籍を取得した人や、生まれながら日本国籍を有する「ハーフ／ダブル」の人なども含めると、さまざまな状況の在日コリアンがいる〔李 2021 年、序文〕。

この節の最後に、国籍に関してよくある誤解をあげてそれを訂正しておく。朝鮮籍が北朝鮮の国籍だと思っている人が多いが、前述したようにこれはまったくの誤解である。朝鮮籍は実態をともなう国籍ではなくて、日本において外国人登録上の出身地としての記号的かつ便宜的な記載である。そのこととも関連するが、国籍は出身地でもなければ支持国家でもない。参考までに、在日コリアン一世の出身地としては、日本に近い南部地方の慶尚北道・慶尚南道や、定期航路があった済州島が多い。

2. 朝鮮学校の紹介

南北分断は在日コリアンにも波及して、在日本大韓民国民団（民団）と在日本朝鮮人総連合会（朝鮮総連）という二つの組織が、それぞれ南と北を支持している。この節では後者の朝鮮総連の影響下にある朝鮮学校を紹介しよう。

日本の敗戦で解放を迎えた在日コリアンたちは、前述したように日本で生まれ育った二世の割合が大きくなっていた。しかし、彼らは戦前に民族の言葉である朝鮮語を学ぶ機会が与えられていなかった。そもそも子どもたちの教育において、植民地支配下の朝鮮では義務教育が実施されていなかったため、日本に住む朝鮮人の子どもたちは義務教育の対象になるかどうかははっきりしておらず、日本の学校では彼らを受け入れるのを嫌がった。そこで、朝鮮人集住地区などでは、朝鮮固有の「書堂」（寺子屋）が設けられたり、簡便な施設の夜学を開いたりするなど、朝鮮人教育機関が作られていた。しかし、日本政府は前述した 1934 年 10 月の閣議決定後は、各府県の警察が朝鮮人教育機関に閉鎖を命じ、朝鮮人の子どもたちを日本の学校に通わせる措置をとった。とりわけ朝鮮語の教育は厳しく禁止するというのが当局の方針であった〔水野・文 2015 年、第 1 章〕。

このように朝鮮語教育を否定する日本政府の同化主義方針は、戦後も GHQ の反共政策と絡み合いながら継承される。日本で解放を迎えた在日コリアンは、朝鮮語の読み書きができない子どもたちのために 1945 年秋頃から国語講習所を設立していった。1946 年 10 月までのあいだに、日本各地に 525 校の初等学院、4 校の中学校、10 校の青年学校が設立され、1,100 余名の教員によって 4 万 1,000 余名の生徒たちに体系的な民族教育が実施されたという（朝鮮総連 HP）。

しかし、冷戦下の東西対立を反映して、民族教育を推進する在日本朝鮮人連盟（朝連、1945 年 10 月～1949 年 9 月、後継団体が朝鮮総連）が左傾化していくため、反共政策をとる GHQ は 1948 年 1 月に、在日コリアンも日本の公私立学校に就学する義務がある等の通達を出す。つまり、GHQ は在日コリアンの民族教育を否定する方針を示し、1949 年 9 月には朝連が解散させられ翌月に朝鮮人学校の閉鎖も命じられた。

その後、1955年5月に朝鮮総連が結成され、新たな民族学校の建設が進められていく。しかし、朝鮮総連は北朝鮮との関係を強めていくとともに、北朝鮮もまた民族学校の建設を積極的に支援したため朝鮮学校が急増する。

その一方で、韓国は民族教育に無理解で、GHQと日本政府が在日コリアンの民族教育を弾圧したことについても韓国政府はその方針を擁護していた。そもそも当時の李承晩政権は、在日コリアンの処遇問題を、日本政府と在日コリアンとの人権問題としてではなく、両政府間での政治外交問題として扱っていた〔関 2019年、結論〕。

朴正熙政権に代わり、1965年に日韓の国交正常化がなされる時期においても、韓国政府は在日コリアンが「日本人に同化される運命」という認識をもっていた。この時期、日本政府はやはり同化主義方針で日本人学校での民族学級を否定し、さらに朝鮮学校に各種学校としての認可を与えない指示を都道府県に出す。だが、多くの自治体は認可を与えつづけていた〔水野・文 2015年、第4章〕。

前述したように、日本で生まれ育った二世は戦前に朝鮮語を学ぶ機会が与えられていなかったため、戦後における在日コリアンの民族教育は国語講習所から始まった。つまり、民族教育において言葉の教育は重要ということだが、日本の学校教育法に定める「学校」（第1条にある規定に由来して一条校と呼ばれる）では日本語で授業をおこなうため言葉の教育が不十分となる。それゆえ、韓国語・朝鮮語で授業をおこなうためには一条校ではなくて各種学校として運営するしかない。在日コリアンの民族学校として多数派である朝鮮学校は、各種学校の初級学校、中級学校、高級学校という位置づけで、朝鮮語で各教科の授業をおこない、また日本の一条校の「国語」に相当する「日本語」の科目も設けている。

一方、6校という少数の韓国学校の場合は、東京韓国学校の初等部、中・高等部と、大阪府のコリア国際学園の中等部・高等部が各種学校で、それぞれ独自のカリキュラムを組んでいる。大阪市の建国小学・中学・高校、同市の大阪金剛インターナショナル小学・中学・高校、京都国際学園中学・高校、茨城県の青丘学院つくばの中学・高校は一条校であり、学習指導要領に則って文部科学省検定済教科書を使用して日本語で授業を行い、また韓国語の授業もある。

よって、日本で民族教育を担う中心的な場となっているのが朝鮮学校だといえる。だが、WEBサイトを見た印象では、民族教育よりも北朝鮮の国民教育に重点が置かれているという批判が多いようである。このような批判に加えて、在日コリアンの少子化や日本国籍取得、国際結婚での日本国籍選択なども大きな要因となり、朝鮮学校の生徒数は減少し続けている〔『産経新聞』WEB版 2019年〕。朝鮮学校の生徒数については、正確さはわからないが、WEBサイト「ウィキペディア」の「朝鮮学校」で具体的な数字があげられていて減少傾向を確認できる。生徒減少にともない廃校となる学校が増え、統廃合を余儀なくされているのが現状である。

2018年4月の時点で、朝鮮学校は幼稚班が40校、初級学校が51校、中級学校が31校、高

級学校が10校、大学校が1校である〔呉2019年、序章〕。

前記のような批判や減少傾向への対策として、朝鮮学校はその後に改革・解放を進め、2003年度にはカリキュラムと教科書が、日本社会での共生を前提とした内容に全面改編された〔朝鮮総連HP〕。また、この時期の朝鮮学校の公開授業で、私は黒板の中央上に飾られていた北朝鮮指導者の肖像画が外されたことを確認している。なお、受入れ生徒に国籍等は関係なく、朝鮮半島にルーツをもつ韓国籍・朝鮮籍・日本籍が在学しているという。

以上からわかることは、東西対立にともなう南北分断は、日本に定住することになった在日コリアンの民族教育にも大きな影響を与え続けてきたということである。民族学校の場合、日本社会でマイノリティとして生きていくうえで求められる民族教育と、南北それぞれの本国政府が求めてくる国民教育との間で生じる葛藤を避けられないだろう。各種学校として独自の民族教育を推進する朝鮮学校ではその葛藤が大きいということがわかる。

一方で、戦前に引き続き、GHQの占領期やそれ以降も在日コリアンの民族教育に冷淡で、北朝鮮との対立を教育現場にまで持ち込む日本政府による圧力もある。これらの葛藤や圧力が在日コリアンの民族教育をさらに困難なものにしているだろう。しかし、こうした葛藤や圧力のことを知らないまま、在日コリアンの民族教育に反対する人も多いように思われる。

現在の日本政府による圧力の例としては、民社国連立政権で2010年度から実施された高校授業料無償制度があげられる（2014年度に就学支援金制度に変更）。この制度を規定した文部科学省令によれば外国人学校（各種学校）も制度の対象になる。そこで、反対する立場を取った自民党では（当時は野党）、国会での法案採決の直前に、党内の文部科学部会と拉致問題対策特別委員会が同年3月に合同で会議を開き、朝鮮学校を高校授業料無償化法案の対象にすべきでないとする決議を全会一致で採択した〔自民党のYouTube公式サイト2010年〕。ここで、教育支援の問題が拉致問題に絡めた政治的駆け引きの道具に利用され、政治が教育に露骨に介入していることを確認できる。

そして、拉致問題と絡める枠組みはその後にも継承され、自民・公明連立政権に交代後の2013年、多くの外国人学校が対象とされたにもかかわらず、朝鮮学校は支給対象から除外されてしまう。文部科学省は同年2月20日、朝鮮学校を「高校無償化」の対象から除外するために省令を改正し、それまでに申請を行っていた朝鮮学校10校に対し、無償化の対象に指定しないことを通知したのである。

当時の下村博文文部科学大臣は前日19日の記者会見で、朝鮮学校を無償化対象から除外する理由として、「朝鮮学校は在日本朝鮮人総連合会（朝鮮総連）の影響下にある」と述べている。文科省は前年末に、日本人拉致問題が進展していないことなどを理由に無償化対象から朝鮮学校を外す方針を表明していた。その後、約1カ月間にわたり一般から意見を公募した結果、約3万件の意見が寄せられ、無償化対象にしない方針への賛成意見が反対意見をわずかに上回る程度であった。下村大臣は「賛成、反対の多い少ないによらず、政府として対象にしないと決定した」と説明している〔『日本経済新聞』2013年〕。

しかしその一方で、「教育への権利」を主張する意見がある。つまり、在日コリアンが「その子どもたちを「立派な朝鮮人」に育てようとする営み、また子どもたちが「立派な朝鮮人」に育とうとすることは、教育への権利として保障されるべきものである。」〔呉 2019 年, 376 頁〕という意見である。補足であるが、このような意見は在日コリアンが日本社会で納税等の義務を果たしていることを前提としている。

この教育への権利が保障されるべきであるという考えに私は同感である。最初にそう思ったのは、憲法第 26 条第 1 項には、「すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。」とあり、国民に「教育を受ける権利」を保障しているからである。しかし、人権に関しては性質説という解釈で憲法が外国人の人権を保障しているとされるが、この憲法の「教育を受ける権利」に関してはそうではないようだ。研究によると、「教育を受ける権利」も、それを受けた教育基本法第 4 条（教育の機会均等）が示す学習権も、日本国籍を有する者にみに該当するという。

そこで、日本における在日外国人の教育権については、国際人権規約（1966 年の第 21 回国連総会で採択、日本は 1979 年に批准）の社会権規約（国際人権 A 規約）第 13 条第 1 項の規定により保障されることになっているとのことである〔金 2009 年〕。その条文の前半を抜粋すると、「この規約の締約国は、教育についてのすべての者の権利を認める。締約国は、教育が人格の完成及び人格の尊厳についての意識の十分な発達を指向し並びに人権及び基本的自由の尊重を強化すべきことに同意する。」である。したがって、日本社会に定住している在日コリアンにも保障されるこの教育権は、そもそも政治の介入を受けてはならないはずである。

朝鮮総連の影響下にある朝鮮学校への意見は様々あるだろう。だが、前述したような葛藤や圧力についての知識をもつことにより、在日コリアンの主たる民族教育の場となっている朝鮮学校への理解が少しでも進むことを願う。そして、私は民族教育を受けるために朝鮮学校に通っている生徒たちの立場や思いに少しでも寄り添いたいと思う。

3. 映画「パッチギ！」の紹介

次は朝鮮高校に通う女子生徒と、日本の公立高校に通う男子生徒との恋愛を扱った映画「パッチギ！」（2005 年に公開）を紹介する。実はこの映画が作られた時期には、朝鮮学校への異常なまでの嫌がらせがあった。先にそのことを説明しておこう。

この映画の公開から 5 年前の 2000 年 6 月、当時の南の金大中大統領がピョンヤンを訪れ、北の金正日総書記と首脳会談をおこない南北共同宣言が出された。このような南北の融和ムードの中で日本政府も動き、2002 年 9 月に当時の小泉純一郎首相が訪朝して日朝平壤宣言が発表される。しかし、同時に北朝鮮が日本人の拉致問題を認めたことが日本社会に衝撃を与えた。その頃の日本では、韓国ドラマ「冬のソナタ」が火付け役となり、歴史の知識をとまなわない上滑りな感じではあるが、2004 年頃から日本で韓流ブームが巻き起こってい

く。その一方で、北朝鮮に対してもやはり歴史の知識をあまりもたないまま、韓流ブームとは真逆の悪感情が増大していく。拉致問題に加えて北朝鮮がミサイル発射実験や核実験を強行したため、日本社会が再び北朝鮮に対して、さらに在日コリアン全般に対しても排外的になっていった。そして、朝鮮学校に通う生徒たちへの嫌がらせも激化していく。

そのような時期の2004年に映画「パッチギ!」は制作され、翌年1月に公開が始まった。パッチギ(박치기)の意味は「頭突き」であるが、WEBサイト「ウィキペディア」の「パッチギ!」の項目では「突き破る、乗り越える」という意味を加えて解説している。次にこの映画のオフィシャル・ウェブサイトから「ストーリー・作品紹介」を引用しよう。

映画の舞台は1968年の京都。府立東高校2年生の主人公である松山康介(塩谷瞬)は、争いが絶えない朝鮮高校(朝高)へサッカーの練習試合を申し込むことになった。

練習試合で朝高に訪れた康介だが、そこで、音楽室でフルートを吹いていたキョンジャ(沢尻エリカ)に一目惚れ。

胸ときめく康介は国籍の違いに戸惑いながらもどうしてもキョンジャと親しくなりたい一心で朝鮮語を必死で勉強する。

そして、キョンジャが演奏していた曲が「イムジン河」であることを楽器店で知り合った坂崎(オダギリジョー)に教えてもらい、演奏することを決意し、楽器店でギターを購入。そんな康介のがんばりが実って、二人は恋に落ちてゆく……。

しかし、二人には大きな壁が立ちはだかった。

実は朝校の番長こそがキョンジャの兄であるアンソンであったのだ……。

そんな、切ない恋と熱い友情、そして激しいリアルファイトの上、最後には爽やかな感動が交錯する「青春炸裂ストーリー」。

井筒和幸監督がおりなすスピード感溢れるエピソードとエンタテインメント映画の傑作。

この映画は第29回日本アカデミー賞で、優秀作品賞・優秀監督賞・新人俳優賞などを受賞して高く評価された。また、映画を観た多くの人びとにとって、日本人と在日コリアンとの共生について考えるきっかけを与えてくれたと思われる。さらに、在日コリアンの民族教育を理解するには歴史的背景の知識が必要であることにも気づかされたであろう。

次は映画「パッチギ!」で主人公が歌った「イムジン河」の歌に移ろう。映画でも京都に流れる鴨川が日本人と在日コリアンとの間の溝を象徴するかのように登場する。映画でその河は日本人と在日コリアンの男子生徒たちがケンカをする場であったし、主人公の男女二人が民族の壁に阻まれながらお互いの想いをぶつけ合う場でもあった。二つのものを分け隔てる河という意味で、映画の河は朝鮮半島中央を流れる「イムジン河」と重なってくる。

この映画のストーリーは、松山猛がエッセイで書いた少年時代の経験がモチーフになっている。彼は中学生の時に、サッカーの親善試合を申し込むために訪れた朝鮮学校で、教室か

ら聞こえてきた「イムジン河」の原曲と出会った。この出会いが、四十数年後に映画の中で別のストーリーに仕立て直されて登場していることがわかる。松山の貴重な経験は、映画を通じて広く共有されるようになった。

漢字表記で「臨津江」となる「イムジン河」は南北分断を象徴する河である。この河の水は朝鮮半島の中央を、北朝鮮の源流から南西に流れ、軍事境界線を超えて韓国の北端を西へと流れ黄海に注がれる。河口より少し東側付近の、漢江がソウル市内を経て南東から流れ込んで合流する辺りからは、中央が南北の境界線になっている。

4. 歌「イムジン河」の力

もともと北朝鮮の歌「リムジンガン（림진강）」（臨津江）が原曲であるため、日本語版である「イムジン河」の誕生には込み入ったエピソードがある。前述した松山に関わるこのエピソードは後述することにして、先に原曲を簡単に解説しておく。

朴世永の作詞、高宗煥（高宗漢という記載もあるが誤り）の作曲による「リムジンガン」の歌は、1957年に北朝鮮でソプラノ歌唱曲として作られた。二人は南北分断の際に南から北に行ったため、二人とも故郷が南の地にある。この歌は記録では初演で歌われただけで、それ以降は顧みられることもなかったという〔喜多2016年〕。原曲の歌詞は一番と二番で構成されている。

歌の題は南北のハングル表記と発音に違いがあるので、それを次に説明しておく。北では「림진강」と表記してリムジンガン（rimjin-gang）と発音するが、南では「임진강」と表記して発音はイムジンガン（imjin-gang）となる。日本語版の「イムジン河」という題は、南の発音をもとに、大きな川を意味する「江」（ガン）を「河」に変えてできたのだろう。

この「リムジンガン」の日本語版である「イムジン河」は、1965～66年頃からザ・フォーク・クルセダーズ（以下、フォークル）が歌い始めた（後に他の日本語版も出る）。その後、この歌は映画「パッチギ！」でも歌われて日本で有名になり、さらに韓国にも知られるようになった。そのため、日本ではこの川を本来の臨津江ではなくて「イムジン河」と記憶する人が多いかもしれない。

フォークルは1965年に加藤和彦、北山修、端田宣彦の3人が結成したフォーク・グループで、1967年のデビュー曲「帰って来たヨッパライ」で一躍有名になった。そして、翌年に「イムジン河」のレコードが発売される予定であったが、直前に発売中止となる。実は「イムジン河」は作者不明の朝鮮民謡とされていたため、朝鮮総連から正式国名と作詞・作曲者の記載を求める抗議があった。だが、それに対して過剰反応したレコード会社（東芝音工）がいわば「一方的撤収宣言」をして発売を中止したという顛末である。朝鮮総連も発売中止に追い込んだように誤解され、この騒動で得をした者はどこにもいなかったという〔喜多2016年〕。

ところで、フォークルに「イムジン河」を伝えたのは、グループの加藤や北山と親しかっ

た松山猛で、グループが結成された1965年、彼らが19歳の頃である。また、松山の少年時代の経験がヒントになって映画「パッチギ！」のストーリーが作られた。

松山は中学生の時、朝鮮学校といつもケンカばかりするから、先生に相談してサッカーの親善試合を申し込み、学校を訪れたところ、ある教室から流れてくる「リムジンガン」の美しいメロディーを聞いて感動する。そこで彼は、知り合いになった在日コリアンの少年からそのメロディーを教わり、彼の姉が書いた一番の歌詞とその日本語訳のメモ、そして朝日辞典をもらった。

その後、松山は知り合うことになったフォークルにその歌を伝え、さらに自分で二番と三番を書き加えた。彼は「分断された国の人びとの、本当の気持ちがわかりようもありませんでしたが、北朝鮮に帰って行って、もう会うことができなくなった友だちのことや、今、世界で起き続けている相互不信を頭に描いて」、詩を書いたという〔松山2002年〕。次に松山の訳詞による「イムジン河」の歌詞を紹介しよう。

イムジン河水清く　とうとうと流る
水鳥自由に　群がり飛び交うよ
我が祖国　南の地　想いははるか
イムジン河水清く　とうとうと流る

北の大地から　南の空へ
飛び行く鳥よ　自由の使者よ
誰が祖国を　二つに分けてしまったの
誰が祖国を　分けてしまったの

イムジン河空遠く　虹よかかっておくれ
河よ想いを　伝えておくれ
ふるさとを　いつまでも　忘れはしない
イムジン河水清く　とうとうと流る

二番と三番の歌詞が加わることで、イムジン河は南北の間を流れるとともに、朝鮮半島と日本との間を流れ、さらに在日コリアンと日本人との間にも流れる、そのような河として、多くの人びとに受け止められたのではないと思う。それゆえ、この歌は発売中止となった後、放送すらもされなかった時代に、河に虹がかかることを願う人びとの間で、長く長く歌い継がれてきたのだろう。

このような「歴史」をもつ歌「イムジン河」は、2000年に始まる南北融和ムードの中で、フォークルの原盤が34年ぶりにCDとして発売されることになった。2002年3月のことで

ある。

34年ぶりの発売時の情勢は、2000年6月に南の大統領によるピョンヤン訪問で南北共同宣言が出され、在日コリアンの間でも統一への期待が高まっていた。日本社会もまたその融和ムードを受けて、たとえば2001年12月の「第52回NHK紅白歌合戦」で、キム・ヨンジャが「イムジン河」（別の歌詞）を熱唱するなど追い風が吹いていた。

しかしながら、翌年3月に「イムジン河」のCDが発売された半年後に、日本での情勢が大きく転換してこの歌への追い風は止んでしまう。9月に小泉純一郎首相（当時）が訪朝し、表面化した拉致問題が日本社会に衝撃を与えたことによる。さらに、北朝鮮がミサイル発射実験や核実験を強行し続けたため、日本社会が北朝鮮だけでなく在日コリアン全般に対しても再び排外的になる。朝鮮学校に通う生徒たちへの嫌がらせに続き、ネット上ではネトウヨによる在日コリアンへの暴言が溢れ、やがてそれはヘイトスピーチに連なっていく。

そんな中でも、前述した映画「パッチギ！」が上映され、歌「イムジン河」が再びクローズアップされていった。YouTubeにアップロードされたこの歌を歌う動画の多さからもわかるように、在日コリアンも日本人も、この歌に癒され励まされた人が多いはずである。いうまでもなく、歌は想いを同じくする人たちをつないでくれる。平和や共生の歌はそれを願う人びとがいる限り、国境や時代を越えて広がっていく。「イムジン河」の歌もまた、河に虹がかかるとを願う人びとの間で、これからも長く長く歌い継がれていくだろう。

おわりに

私はかつて1980年代の軍事独裁政権の時期に韓国に留学した経験がある。言論の自由が著しく制限されていた当時の韓国で、北朝鮮に由来する「イムジン河」を歌うことは危険であったため、親しい友人の前でも決して歌わなかった。そのような経験があるため、YouTubeで「イムジン河」を検索すると、かつてフォークルが歌ったモノクロの動画以外にもたくさんの動画が現れてきて、多くの人たちの間で歌い継がれていることに時代の流れを感じる。しかも、韓国でこの歌を日本語のままで歌うイ・ラン(이 랑)という歌手がいることに驚き、そして感動を覚えた〔イ・ランのYouTubeサイト〕。

私の受講生たちの中にも、この「イムジン河」が放つメッセージに触発されて、在日コリアンとの共生を考え始める人たちがいる。そのことに勇気を得てこの拙い研究ノートを書いた。

【参考文献】

- 小熊英二『単一民族神話の起源—「日本人」の自画像の系譜』新曜社、1995年
松山猛『少年Mのイムジン河』木楽舎、2002年
水野直樹・文京洙『在日朝鮮人—歴史と現在』岩波新書、2015年
青野正明『帝国神道の形成—植民地朝鮮と国家神道の論理』岩波書店、2015年

喜多由浩『『イムジン河』物語—「封印された歌、の真実」』アルファベータブックス, 2016年

青野正明『植民地朝鮮の民族宗教—国家神道体制下の「類似宗教」論』法蔵館, 2018年

関智焄『韓国政府の在日コリアン政策〔1945-1960〕—包摂と排除のはざまで』クレイン, 2019年

呉永鎬『朝鮮学校の教育史—脱植民地化への闘争と創造』明石書店, 2019年

李里花・編著『朝鮮籍とは何か—トランスナショナルの視点から』明石書店, 2021年

金泰勲「在日外国人の学習権と人権」『教育研究』（国際基督教大学）第51号, 2009年3月
「外国人登録法」「在留資格」「特別永住者」の小項目（『ブリタニカ国際大百科事典 小項目電子辞書版』2018年4月改訂版）

「高校授業料無償化法案 朝鮮学校は対象とすべきではない！」（自民党のYouTube公式サイト, 2010年3月11日付, 2021年3月23日閲覧）

<https://www.youtube.com/watch?v=CZvToPr3Ub8>

「朝鮮学校を無償化対象外に 文科省が省令改正 20日付で」(『日本経済新聞』WEB版, 2013年2月19日付, 2021年3月23日閲覧)

https://www.nikkei.com/article/DGXNASDG1901M_Z10C13A2CR0000/

「朝鮮学校生徒減少の背景に少子化 帰化・国際結婚で深刻に」(『産経新聞』WEB版, 2019年12月30日付, 2021年3月23日閲覧)

<https://www.sankei.com/life/news/191230/lif1912300016-n1.html>

「民族教育 ～ 2003年度からの新教科書」(新鮮総連 HP, 2021年3月23日閲覧)

<http://chongryon.com/j/edu/index3.html>

「在日コリアンとは」(在日コリアン・マイノリティー人権研究センター (KMJ) HP, 2021年3月23日閲覧)

<http://www.kmjweb.com/about/korean.html>

「ストーリー・作品紹介」(映画「パッチギ！」オフィシャル・ウェブサイト, 2021年3月23日閲覧)

<http://www.pacchigi.com/>

「[MV] 이랑 イ・ラン—임진강 イムジン河」(イ・ランのYouTubeサイト「lang lee」, 2018年1月1日, 2021年3月23日閲覧)

https://www.youtube.com/channel/UCw5txL30_BBKIGNAwxye7uA

(2021年4月7日受理)